



善應寺

★ ★ バスの広告協賛を頂いてます ★ ★



善應寺の創建は記録や史料などからすると室町以前と推察されています。本堂左手前の観音堂は土浦市指定文化財でもあり、寛文十一年に建立され、貞享二年と寛政十二年に二度の火災に遭いましたが、文化十一年(1814)に再建されています。伽藍には入母屋造り瓦葺、六間四面の本堂と三間四面、入母屋、瓦葺の観音堂があります。また、善應寺は 四国霊場のお砂を関東の八十八の名刹に勧請した「関東八十八ヶ所霊場」の第三十五番です。観音堂左手下にある照井は弘法大師が掘ったという言い伝えがあり「臼井鏡井」とも呼ばれております。照井のほかに後世に継がれる書跡・史跡・工芸品が善應寺には多く残されています。



← 善應寺の住職を努めたとされる、幕末の勤皇の志士佐久良東雄(良哉)の像。



← 観音堂(市指定重要文化財)屋根の棟には土屋家の家紋である「三ツ石紋」が掲げられています。

照井の井戸



本堂入口のすぐそばにある「照井の井戸」は弘法大師が掘ったという言い伝えがあり、「臼井鏡井」と呼ばれています。土浦市指定文化財になった井戸の看板には『古くから水量が豊かで衰えたことがない名泉である。鎌倉街道にも近く水戸街道ぞいにあるので旅人の憩いの場であったろう。寛文年間(1661)から土浦城内に水道を通し歴代藩主がこの井戸を保護してきた』と説明書きが掲げられています。水戸街道を通る旅人ののどを潤し、土浦城へ木樋で通水し、これが土浦における上水道の始まりといわれています。現在でも昼夜問わずこの井戸水を汲みに来る方で賑わっています。是非一度お試しください！夏はとても冷えた井戸水が飲めます。

《書跡》

佐久良東雄の書「聖観音」木額

《史跡》

佐久良東雄の墓 大久保要の墓 木原老谷の墓 照井(照井の井戸)

《工芸品》

六地藏石幢



関東八十八ヶ所霊場 第三十五番礼所 真言宗豊山派 照井山 善應寺

【所在地】 土浦市真鍋3-12-1 【TEL】 029-821-3848

【駐車場】 有り ★キララちゃんバスでお越しの際は、Aコース『善應寺』下車

